

[普及事項]

新技術名：ナシ新品種「秋田2号」の育成（平成5～19年）

研究機関名 果樹試験場 天王分場班

担当者 長澤正士・原加寿子 他6名

[要約]

ナシの新品種「秋田2号」を育成した。この品種は、県中央部で10月上中旬に収穫可能な晩生種の赤ナシである。果実重は500g以上の大果となり、糖度は、「幸水」、「豊水」等の主要品種より高く、酸味は「幸水」並と甘みが際立つ食味である。県内の主要な一般品種の花粉により結実する。

[ねらい]

「幸水」に偏った品種構成を是正し、多様な消費者ニーズに対応できる新品種を育成する。

[技術の内容・特徴]

1. 育成経過

- 1) 本品種は、平成5年「新星」に「豊水」を交雑し、その後平成14年に初結実し、大果で品質が優れることから平成15年に1次選抜した。
- 2) 天王分場内の検討会および果樹協会中央部連絡協議会役員会で高評価を得て、平成15年に2次選抜した。
- 3) 平成16年春に、県内の主要9産地に穂木を分譲し、現地試験を開始した。

2. 特性

- 1) 樹勢は強く、樹姿は交配親「新星」と似る。
- 2) 外観は円形に近いが、交配親「新星」と同様、ていあ部が細くなることがある。果皮色から赤ナシに分類される。
- 3) 果実の大きさは、平均500g以上と極大で、1kgを超えるものもある。花芽着生は良く、短果枝は維持されやすいため、生産量はやや高いと考えられる（表1、図2）。
- 4) 糖度は、主要品種「幸水」、「豊水」より高く、酸味は「幸水」並で、甘みが際立つ食味である（図1）。
- 5) 果芯が非常に小さく、可食部が多い。
- 6) 日持ち性は、室温で2～3週間程度で、同時期に収穫される「新星」並である。
- 7) 「幸水」、「豊水」、「かほり」、「長十郎」、「豊月」、「新興」等の花粉により結実する。ただし、花粉量が極少なので受粉樹には向かない。
- 8) 生理障害の発生は、年により果梗基部の裂果、紫変色枝枯れ症が認められる。収穫前落果はみられない。
- 9) 一般的な防除管理において、特に問題となる病害虫の発生は認められない。しかしながら、えそ斑点病に対して感受性であるため、高接ぎ更新をする際には注意が必要である。

3. 期待される効果

- 1) 本県のニホンナシ栽培面積の60%を超える「幸水」偏重が是正され、「幸水」収穫期の労働ピークが緩和される。

[普及対象範囲]

県内ナシ生産者

[普及・参考上の留意事項]

- 1) えそ斑点病に対して感受性であるため、高接ぎ更新をする際には保毒していない樹に実施する。

[具体的なデータ等]



写真1 結実状況



写真2 親品種との比較

表1 「秋田2号」の果実品質（原木）

年次	収穫日	果重 (g)	果形(mm)		硬度 (lbs)	糖度 (%)	リンゴ酸 (g/100ml)
			好	ヨコ			
平成14年	10月24日	-	-	-	-	13.9	-
15	10月10日	832	-	-	-	14.4	-
17	10月11日	453以上	-	-	-	13.9	-
18	10月7日	522	10.0	9.8	4.9	13.9	0.097
19	10月中旬 ²	756	10.5	11.4	5.8	13.9	0.091

² 10月11～16日に収穫した果実についての平均値

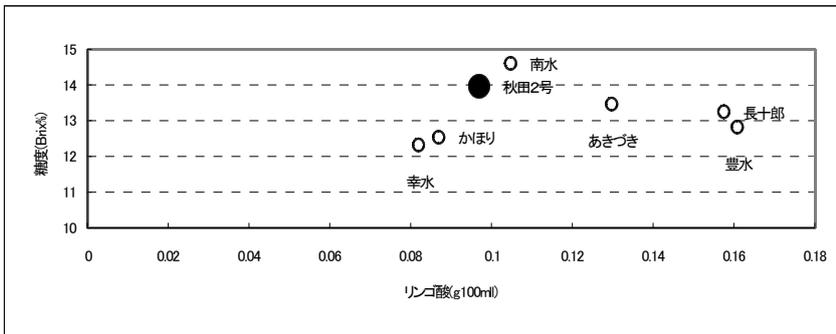


図1 主要品種との糖度およびリンゴ酸の比較（平成18年産）

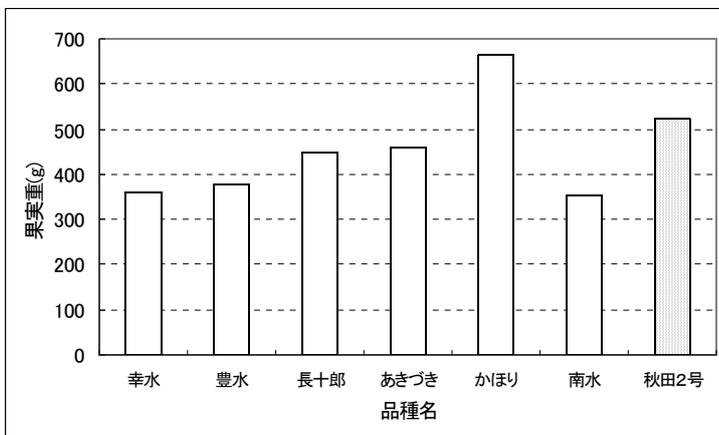


図2 主要品種との果実重の比較（平成18年産）

[発表文献等]

特になし